平成２８年度

学校評価報告書

黒部市立たかせ小学校

目　次

１　たかせ小学校　学校経営の方針　　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１

２　学校アクションプラン計画　　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２
（学校の目標を重点化して学校改善を図るもの）

３　学校アクションプラン結果／成果と今後の取組　・・・・・・　Ｐ３～５
（児童の自己評価結果/成果と今後の取組）

４　学校評議員会記録（学校関係者評価）　・・・・・・・・・・・・　Ｐ６～９

５　学校経営に関する保護者アンケート
（学校での学習や生活、学校と家庭の連携他）
（１）保護者アンケート　・・・・・・・・・・・　Ｐ１０
（２）保護者アンケート集計結果　・・・・・・・・・・・　Ｐ１１～１２

６　教育活動の振り返り（内部評価）
（１）１学期の反省をふまえた２学期の重点事項　・・・・・　Ｐ１３～１５
・教務部会、生徒指導部会、保健部会

（２）２学期の反省をふまえた３学期の重点事項　・・・・・　Ｐ１６～１８
・教務部会、生徒指導部会、保健部会

（３）３学期の反省をふまえた来年度の重点事項　・・・・・　Ｐ１９～２１
・教務部会、生徒指導部会、保健部会

（４）今年度の成果と来年度に向けた課題　・・・・・・・　Ｐ２２～２３

1　たかせ小学校 学校経営の方針

〈目指す学校像〉

歌声が響き合い、楽しくて　夢が広がる学校

子供たちにとって楽しい学校　・　教師にとっても楽しくやりがいがある学校

〈学校教育目標〉

素直な心とたくましい体で、進んで学ぼうとする子の育成

【心】「きれいな心の子」・・・・・・・・・・感謝と思いやりの心をもつ子

【知】「大きな夢もつ子」・・・・・・・・・・目標をもって進んで学ぶ子

【体】「笑顔いっぱいの子」・・・・・・・・元気で強いからだをもつ子

きれいな心の子

温かい人間関係づくり

○授業や学級活動、縦割り班活動を通した温かい人間関係づくり

○あいさつ運動の推進
「笑顔であいさつ！」
※おはよう、こんにちは
さようなら

大きな夢もつ子

分かる授業づくり

○授業における基礎的・基本的な学習内容の確実な習得

○安心して学習に取り組める授業での約束事の成立
～学習規律の確立～

笑顔いっぱいの子

心身の健康づくり

○「みんなでチャレンジ3015」の活用による体力つくり
※全校リレー、大縄跳び、朝の自主マラソン等

○「元気にこにこカード」を活用した、望ましい生活習慣の定着

（連携・協力）

（連携・協力）

家庭で取り組みたいこと

家族のふれあい（ふれあいたっぷり）

○あいさつの声が響き、気持ちを伝え合える家庭にしましょう。
※おはよう、ただいま
おかえり、おやすみ
ありがとう、ごめんなさい、よかったね

○家族で決めた手伝いを継続的にさせましょう。
※家族の一員として、共に支え合う喜びをもたせましょう。

○「よいこと」「悪いこと」の判断を教えましょう。

家庭学習の習慣づけ（勉強こつこつ）

○家庭学習の習慣を身に付けさせましょう。
※「10分×学年＋10分」を目標にして、机に向かうように支援しましょう。

○決まった場所で、決まった時間に学習できるように学習環境を整えてあげましょう。
※低学年は子供が安心できる場所で学習させてあげましょう。

規則正しい生活リズム（けじめ、しっかり）

○早寝、早起きができるように支援しましょう。

○バランスのよい３度の食事を食べさせましょう。
※特に朝食は、一日の生活の元気のエネルギーになります。また、学習意欲や心身の健康にも影響するといわれています。

○ゲームやテレビの視聴時間は、家族で約束事を決めましょう。
※自分で決めたことを守れる子にしょう。

◆アクションプラン

1「あったか言葉」の推進

自分から進んで「あったか言葉」を使うことができる児童の達成率80%以上を目指す。

2　学習習慣の定着

学習習慣チェックカード(自己評価）の達成率80%以上を目指す。

3 望ましい生活習慣の育成

ゲーム使用・テレビ等の視聴時間についての「わが家のルール」を守っていく児童の達成率85%以上を目指す。

２　学校アクションプラン計画

重点項目	【心】「きれいな心の子」‥‥‥‥‥‥感謝と思いやりの心をもつ子
重点課題	◆　好ましい人間関係づくり　（「あったか言葉」の推進）
具体目標	・自ら進んで「あったか言葉」を使うことができる児童の達成率８０％以上
方　策	・「あったか言葉」の一つであるあいさつを子供同士で増やしていけるよう、あいさつボランティアを推進したり、あいさつ運動を工夫したりする。 ・学級で増やしたい「あったか言葉」を学級で考え、全校に発表したり、掲示したりする。 ・「あったか言葉」と平行して「あったかアクション（相手を思いやる行動）」のよさも意識できるよう、教職員からも積極的に声かけをする。

重点項目	【知】「大きな夢もつ子」‥‥‥‥‥‥目標をもって進んで学ぶ子
重点課題	◆　望ましい学習習慣の定着　（家庭学習）
具体目標	・学習習慣チェックカード（自己評価）の児童の達成率 80%以上）
方　策	・「家庭学習の手引き」の内容をより具体的にしたり、パワーアップノート（自主学習ノート）を用いたりしながら、学校と家庭が連携し、学習の習慣化を図っていく。 ・「学年× 10 分＋ 10 分」の家庭学習の継続を目標にし、自分の取組の様子を振り返りながら「学習習慣チェックカード」を用いて自己評価を行う。 ・家庭学習の取組について紹介するコーナーを設け、互いの取組のよさを参考にしながら、見通しをもって取り組めるようにしていく。

重点項目	【体】「笑顔いっぱいの子」‥‥‥‥元気でたくましい体をもつ子
重点課題	◆　望ましい生活習慣の育成
具体目標	・ゲーム使用・テレビ等の視聴時間についての「わが家のルール」を守っていく児 童の達成率85％以上
方　策	・「みんなでチャレンジ3015」を活用したり、校内放送で呼びかけたりして、毎朝の自主マラソンや晴れた日の外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。 ・毎週月曜日に実施する早寝、健康生活調べやゲーム・テレビの視聴についての「守ろう！わが家のルールウィーク」を実施して、望ましい生活習慣の定着を図る。 ・「早寝・清潔検査」や「ゲンキッズ作戦」の結果を家庭と共有し連携しながら、健康な生活への意識を高める。

３　学校アクションプラン結果／成果と今後の取組

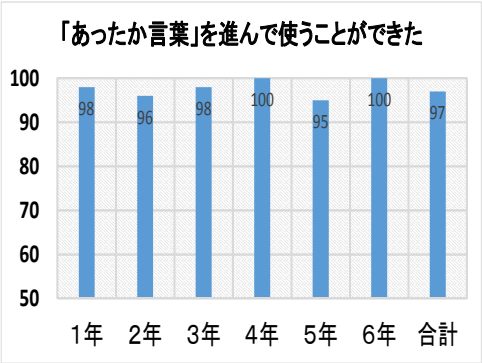
（児童の自己評価結果／成果と今後の取組）

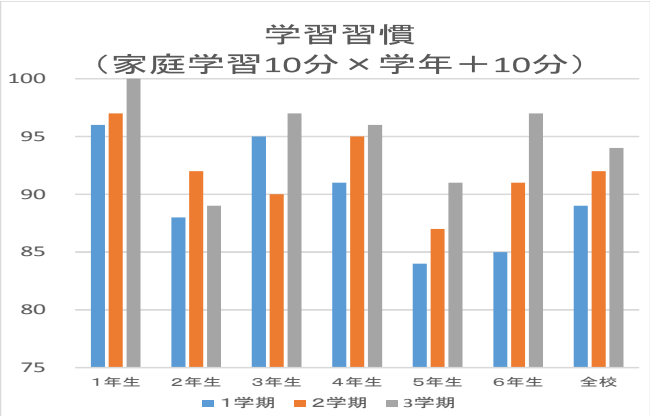
重点項目	【心】「きれいな心の子」‥‥‥‥‥感謝と思いやりの心をもつ子
重点課題	◆「あったか言葉」の推進（好ましい人間関係づくり）
具体目標	自ら進んで「あったか言葉」を使うことができる児童の達成率80%以上
方　策 （取組）	・「あったか言葉」の一つである挨拶を子供同士で増やしていけるよう、挨拶ボランティアを推進したり、挨拶運動を工夫したりする。 ・学級で増やしたい「あったか言葉」を学級で考え、全校に発表したり、掲示したりする。 ・「あったか言葉」に加えて、「あったかアクション（相手を思いやる行動）」のよさも意識できるよう、教職員からも積極的に声かけをする。

【あったかポストの設置】

【あったか人権集会】

【あいさつ運動】

結　果	 「あったか言葉」の達成率は、全校で９７％だった。その中で「よく使うことができた」は５３％、「ときどき使うことができた」は４４％だった。 また、１１月から挨拶パワーアップ週間を設け、各クラスごとに目当てを決めて取り組んだ。全校の１１月の達成率は８３％、１２月の達成率は８４％だった。
成　果 と 今後の取組	・各クラスの実態に応じた挨拶の目当てを設定することで、一人一人が自分の目当てを意識して大きな声で挨拶をしたり、進んで挨拶ボランティアに取り組んだりする子供たちの姿が見られた。 ・人権集会では、各学級の「あったか言葉」や「あったかアクション」の取組を紹介し合った。また、「あったかポスト」を設置し、カードで感謝の気持ちを伝え合うことは、校内の温かい雰囲気づくりにつながったと思われる。 ・来年度は、もっと年度当初から「あったか言葉」や「あったかアクション」の意識を校内に高めていきたい。

重点項目	【知】「大きな夢もつ子」‥‥‥‥‥目標をもって進んで学ぶ子
重点課題	◆　学習習慣の定着　（家庭学習の充実）
具体目標	学習習慣チェックカード（自己評価）の児童の達成率80%以上
方　策 （取組）	・「家庭学習の手引き」の内容をより具体的にしたり、パワーアップノート（自主学習ノート）を用いたりしながら、学校と家庭が連携し、学習の習慣化を図っていく。 ・「学年× 10 分＋ 10 分」の家庭学習の継続を目標にし、自分の取組の様子を振り返りながら「学習習慣チェックカード」を用いて自己評価を行う。 ・ 家庭学習の取組について紹介するコーナーを設け、互いの取組のよさを参考にしながら、見通しをもって行うようにしていく。 【家庭学習番付表】
結　果	 ・1・2 学期とも、すべての学年が目標の８０%を達成している。また、ほとんどの学年が、１学期の結果に比べ、２学期の結果が向上していた。パワーアップノートを使った家庭学習の取組が２年目を迎え、進め方が定着してきた 。
成 果 と 今後の取組	・昨年度から、全学年共通の「パワーアップノート」を使い、家庭での学習習慣の定着を図っている。今年度は新しく発行した「たかせ小ガイド」の中で、家庭学習の取組を全家庭に呼びかけた。また、１階廊下に「家庭学習パワーアップノート番付表」を掲示し、子供のがんばりを全校に紹介する取組も始めた。さらに、３学期には学年便りを通じて、各学年の家庭学習の手本となる取組を紹介した。子供たちは手本となる取組を参考にしながら、目標をもって家庭学習に取り組めるように育ってきていると感じる。 ・各種学力調査の分析結果から課題を明らかにし、その解決に向けた授業の工夫と家庭学習との連携を図っていきたい。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全校
1 学期	96 %	88 %	95 %	91 %	84 %	85 %	89 %
2 学期	97 %	92 %	90 %	95 %	87 %	91 %	92 %
3 学期	100%	89%	97%	96%	91%	97%	94%

<table>
<tr><td>重点項目</td><td>【体】「笑顔いっぱいの子」・・・・・・・・元気でたくましい体をもつ子</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>◆　望ましい生活習慣の育成</td></tr>
<tr><td>具体目標</td><td>・ゲーム使用・テレビ等の視聴時間についての「わが家のルール」を守っていく児童の達成率85％以上</td></tr>
<tr><td>方　策
（取組）</td><td>・毎週月曜日に実施する早寝、健康生活調べやゲーム・テレビの視聴についての「守ろう！わが家のルールウィーク」を実施して、望ましい生活習慣の定着を図る。
・「みんなでチャレンジ3015」を活用したり、校内放送で呼びかけたりして、毎朝の自主マラソンや晴れた日の外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。
・「早寝・清潔検査」や「ゲンキッズ作戦」の結果を家庭と共有し連携しながら、健康な生活への意識を高める。「ゲンキッズ作戦」の結果を家庭と共有し連携しながら、健康な生活への意識を高める。</td></tr>
<tr><td>結　果</td><td>わが家のルール達成率
<table><tr><td>１学期</td><td>２学期</td><td>３学期</td></tr><tr><td>８７％</td><td>８０％</td><td>８０％</td></tr></table>
・テレビの視聴やゲームの使用について、毎週月曜日に行っている「早寝・清潔検査」で、子供たちの利用状況を把握し、適切な利用の仕方について指導を行った。また、保健だよりでの啓発、学級懇談会での話合いを通して、保護者の協力も得られるようにした。学期に１回「守ろう、わが家のルールウィーク」を実施した結果、１学期の全校平均は８７％で目標を達成できたが、２学期は屋内で過ごすことが多いこともあり、８０％と目標には届かなかった。３学期は、さらに落ち込むことが予想されたので、テレビ・ゲーム以外のことを楽しみ、健康な過ごし方が工夫できるよう学級指導を行った。その結果、８０％を維持することができた。
・全校リレーや縦割りリクリエーション、全校大縄跳びに取り組むことで、他の学年と交流しながら運動に楽しく取り組んでいる。朝の自主マラソンや晴れた日の「空っぽタイム」では、自主的に運動する姿が多く見られた。
・「早寝・清潔検査」の学級ごとの結果を分かりやすく全校に知らせた。「ゲンキッズ作戦」の結果については、よい点や改善点について保健だよりで保護者に知らせた。これらの取組により、健康な生活習慣を築いていこうとする子供や保護者の意識を高めている。</td></tr>
<tr><td>成　果
と
今後の取組</td><td>・生活習慣について全体的によい傾向にはあるが、テレビ、ゲームの視聴が長時間になり、生活習慣が崩れがちになる子供も見られる。今後も、子供たちへの健康への関心を高め、保護者と連携をさらに深めて、望ましい生活習慣を築いていく必要がある。
・自主的に運動する機会や、全校でいろんな運動に取り組む機会を設けることで、多くの子供たちは、体を動かすことを楽しんでいる。これらの活動を今後も続け、運動の日常化につなげていきたい。</td></tr>
</table>

４　学校評議員会記録（学校関係者評価）

（１）第１回評議員会　　平成２８年７月６日（水）

日時　　平成２８年７月６日（水）　　場所　　たかせ小学校　校長室

・：評議員　　〇：学校

【新１年生の様子について】

・入学してから３か月たったが、新１年生は、たかせ小学校の学校生活に慣れてきているのか。

〇今年度は、昨年度年長児を担任した先生方の多くに、新１年生の様子を見てもらっている。先生方に感想を書いてもらっているが、１年生になっての成長に驚いておられた。

・今日、保育所の子供たちが夏休みの催しの招待状を１年生の子供たちに持ってきた。そのときの様子を聞くと、入学した１年生がお兄さんの雰囲気を強く出していたため、保育所の子供たちも背筋が伸びていたようである。また、知っている顔だからか、しっかり挨拶もしてくれていた。

【挨拶について】

・地域での挨拶の様子はどうですか。

・小学生だとしっかりと挨拶をしてくれている。「あこや～の」の近くに家があり、畑作業をしていると、遠くから来た小学生が見ず知らずの私にも元気よく挨拶してくれている。

〇たかせ小学校の子供たちも同様に挨拶ができていますか。

・挨拶をしてくれていると思う。だから、中学校に進学した子供たちの挨拶には物足りなさを感じる。さわやか活動での高校生の挨拶も弱いように思う。この状況を考えると、小学生の間に挨拶はこの後ずっと大切にしていかなければならないことだと教えていくことが必要である。

【登下校時の安全確保について】

・先日から、校区でクマやイノシシが目撃されることが多いようである。学校としてどのような対応をしているのか。保護者に付き添ってもらいながらの登下校などを考えているのか。

〇校区でのクマやイノシシが目撃された場合には、加入率が９０％を超える安全メールで注意を喚起していた。目撃情報が続いたときには、保護者や防犯パトロール隊に付き添いをお願いしようと考えていた。その後、昨日も子グマの目撃情報があったが、全体的には少なくなってきているので安心している部分がある。

・サルも危険である。テレビ等で動物のかわいらしい様子を放送しているため、子供たちは動物を身近に感じている。しかし、動物の危険性は正しく教えていかなければならない。

・学童の施設でハチが出る。市役所にお願いして、駆除してもらっている。近くに巣があると思われるが、特定できない。子供たちの周りには、たくさんの危険がある。
・防犯パトロール隊員の中には、子供たちにけがを負わせてしまった場合、保護者からの非難と共に、保障を気にかけている人がいる。隊員には、保険をかけているが、子供はどうしたものだろうか。
〇子供には、日本スポーツ振興センターに加入している。家を出てから、家に戻るまで子供は保障されている。その面では心配しなくてもよい。
・防犯パトロール隊の方に下校時の保障のことを尋ねられた場合は、このことを話せば安心されると思う。
・東布施では、就学児童の家庭から防犯パトロール隊員を出し、それに役員が加わり運営している。統合を機にスタイルを変えている。

【たかせ小学校の生活のきまりについて】
・「たかせの子のやくそく」では、帰宅時刻は５時となっているが、なかなか守れないようである。学校から指導してもらえると、ありがたい。
・学童の保護者会でも、帰宅時刻にはいろいろな意見があった。きまりを積極的に守らせてほしいという意見もあれば、家庭の裁量だという意見、あまり関心がないという意見もあった。いろいろな意見があり、難しい。ただ、自転車の乗り方が乱暴な面があることやヘルメットをしないで乗車している子供がいるという話も出ていた。
・地区の人間としてもきまりを知らないと子供たちに注意することができない。知らせてもらえる手立てはないものだろうか。
〇学校だよりを地区で回覧してもらえるようにできないだろうか。そうすれば、学校だよりを通じて、学校の様子やきまりを伝えることができる。もし、できるようであれば２学期から行いたいので、ぜひ、検討してほしい。

（２）第２回評議員会　　平成２９年２月２４日（金）
日時　平成２８年７月６日（水）　場所　たかせ小学校　校長室
・：評議員　〇：学校

【交通安全について】
・今年度は、熊の目撃情報が多かった。このような中で、熊による被害もなく、交通事故もなかった。安全パトロール隊の存在が心強かった。
・道路脇には、今まで交通安全を呼びかける看板を立てていたが、規制等により設置が難しくなっている。
・新しく信号機がなかなか設置してもらえない。老朽化等でメンテナンスで手一杯のようだ。
・信号機の設置には、そこが危険な場所であることを証明しなくてはならない。具体的に危険を証明することは難しい。

・東布施地区では、防犯パトロール隊のシステムを大きく変更した。新１年生の家庭から１名登録する形をとっている。このことにより、防犯パトロール隊の見送り、出迎えへの取組がよくなった。
・場所によっては、子供たちの飛び出しをしている姿が見られる。学校・家庭でも日常的に交通安全を呼びかける必要がある。また、地域も積極的に呼びかけるようになるとよい。
〇学校では、命にかかわることについては、指導を繰り返している。ただ、指導が生きているか検証する必要がある。また、全国で起きた大きな事件は、先生方に伝えるようにし、注意喚起を行っている。

【感染症について】
・今年度、学校ではインフルエンザが流行したと聞いている。黒部市民病院に感染症への認定を受けた看護師がいると聞いている。流行前に、子供たちに予防の仕方等を話してもらう機会を取り入れるとよい。
・インフルエンザは、予防注射をうっても発症することがあると聞いている。重症化しにくいとも聞いているが、予防を進めていくのはよいことだと思われる。

【挨拶について】
・今学期には学童で子供たちから「ありがとう」という言葉がよく聞かれた。挨拶はよくなってきているし、できていると思う。
・今日も学校に来る際に子供たちとすれ違ったが、「こんにちは」等、挨拶をしてくれ、とても嬉しかった。
・日頃の先生方の指導の成果だと思う。
〇小さなトラブルはあるが、本校ではいじめがない。３学期は、あわただしい学期で、先生から子供への指示が多くなる時期である。このような中で、先生方には、できていることを認めることを大切にしてほしいと呼びかけている。

【教員の年齢構成について】
〇市内の学校で、先生方の言葉遣いが原因で問題になっているところがある。本校では、言語環境を整えるように助言しているところである。ただ、今後、大量採用の時期が来ているので、若い教員が増えていくという課題もある。助言を継続させていきたい。
・先生方の人間性を高めるために話し合える場、研修できる場があるとよいのではないだろうか。
〇本校でも、情報の発信の仕方がよくなく、トラブルに発展しそうな事例があった。それをきっかけとして対応の仕方についての研修会を行ったところである。
〇教員としての品格を保つことは、年度当初、先生方に伝えている。例えば、登下校時の服装を正すなどである。年配者が意識して、若手教員に伝え、つないでいくこ

とが必要である。本校では、ほとんどの学年が２クラス編成であり、その場合には、ベテランと若手とで組むようにしている。

〇一方で、子供たちの人間関係が悪いまま２年間を過ごすことには問題があると考えている。そこで、学校がとても落ち着いている現在、毎年学級編成をし、幅広く友達関係を築いていけるようにしていく。

【多忙化解消について】

〇本校の教職員も夜遅くまで残り、仕事をしている。これは、何とか是正していきたいと考えている。

・プレミアムフライデーが話題になっているが、実現は難しいと思っている。特に学校現場の実現は困難ではないかと思っている。

〇校長会とも連絡を取りながら、時間になったら留守電に切り替えることを取り入れていきたい。こうすることで、多忙化解消の一つの方策としていきたい。

・若いお母さんたちと話す機会があった。その時には、「勤めているときは、電話ができない。休みか夜にしか電話ができない。」という話が出た。ただ、平日でも市役所等の手続きはできているようなので、不思議な面がある。

〇横浜の学校経営困難校では、留守電を導入し、切り替えの時間を１年目は１９時３０分に２年目は１８時に早めたそうである。保護者が一時的な感情で電話をすることが減り、精神的に落ち着いて電話をかけるようになったということであった。

・保育所でも夜遅くまで残る傾向があった。管理職が仕事の順番付けをするよう助言したり、今日しなければならない仕事か尋ねたりすることで、昨年度よりも今年度早く帰宅するようになっている。管理職が働きかけ、１０分でも早く帰ることができるようにすることが大切である。

・教員の業務は、学習指導だけではなく様々な仕事を幅広く取り組んでいかなければならないため、大変である。

〇早く帰宅すれば、その分家に持ち帰る仕事量が増える。一概に早く帰宅するように呼びかけても難しい面がある。バランス等を考えていく必要がある。

【ＰＴＡ活動について】

・ＰＴＡの役員のなり手が少ないため、なかなか決まらない面があるということを聞いている。

・ＰＴＡとしては、ＰＴＡ役員の経験の少ない方を優先して選考している。どの人も同じようにＰＴＡ活動に携わるようにしたいと考えている。

・ＰＴＡ活動では、子供たちのためにということで保護者が活躍している。その中で、様々なことに関わり、団結力やまとまりを高めていってほしい。

５　学校経営に関する保護者アンケート

（１）保護者アンケート

平成２８年１２月１日

保護者　各位

黒部市立たかせ小学校
校長　　宮　﨑　新　悟

学校経営についてのアンケートのお願い

日頃、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本校では、目指す学校像を「歌声が響き合い、楽しくて　夢が広がる学校」とし、「きれいな心の子」「大きな夢もつ子」「笑顔いっぱいの子」を育てるために、次のようなことに力を入れて取り組んでいます。

１　アクションプランの設定…「あったか言葉の推進・家庭学習の定着・望ましい生活習慣の育成」

２　今年度の取組の重点

(1)　家庭や地域社会との連携（「たかせ小ガイド2016」の新規作成と「ホームページ」リニューアル）

(2)　教育・安全情報メールの積極的活用

(3)　異学年交流縦割り活動の充実（全校リレー、大縄跳び、縦割り給食、縦割り掃除など）

(4)　家庭学習の習慣化（学年×１０分＋１０分以上）と家庭学習ノートカバーの作成・活用

(5)　教師の授業力向上に向けての研修の充実（外部講師の招聘、若手教員研修の充実など）

上記の目標を達成するために教育活動に関するアンケートを実施し、今後の教育活動に生かすとともに、地域に開かれ、信頼される学校づくりを推進したいと考えています。どうぞ、ご協力をお願いいたします。

（　　）学年保護者

１　以下の各設問のあてはまるものに○を付けてください。

【Ａ：よくあてはまる、　Ｂ：ややあてはまる、　Ｃ：あまりあてはまらない、　Ｄ：全くあてはまらない】

	内　　容	A	B	C	D
1	学校は運営方針を分かりやすく伝えている。【取組の重点(1)(2)】				
（具体的取組） ・たかせ小ガイド2016（今年度作成）　・ホームページ（今年度リニューアル） ・学校だより　・学年だより　・学年、学級懇談会　・教育・安全情報メール					
2	学校は望ましい生活習慣について指導している。				
（具体的取組） ・「わが家のルール」チェックカード　・あいさつ運動週間　・あったか言葉の推進 ・学習習慣チェックデー　・生活健康チェック（月曜日）　・とやまゲンキッズ作戦 ・歯みがきタイム　・マラソンタイム（水曜日）　・朝の自主マラソン					
3	学校は子供たちが楽しく過ごせる学校づくりに努めている。【取組の重点(3)】				
（具体的取組） ・異学年交流縦割り活動（全校リレー、大縄跳び、縦割り給食、縦割り掃除、集団登校） ・「学校からっぽタイム」（火曜日の大休憩にグラウンドで楽しく活動する） ・担任とのふれあい週間（面談による教育相談）　・フレンドリー集会（児童集会）の充実					
4	学校は学習しやすい環境、子供たちの活動が分かる環境整備に努めている。				
（具体的取組） ・空調設備の整備（今年度実施）　・書画カメラやプロジェクターの活用（全学級に配置） ・教室や廊下の掲示板の活用（シンプルで落ち着いた掲示に配慮） ・集会活動の記録の蓄積（大判紙に整理して一階廊下に掲示）					
5	学校は分かりやすい授業を通して基礎・基本を定着させ、学力を高めようとしている。【取組の重点(4)(5)】				
（具体的取組） ・読書タイム（朝活動で10分間実施。木曜以外）　・漢字・計算大会 ・家庭学習の習慣化（学年×１０分＋１０分以上）と家庭学習ノートカバーの作成・活用 ・教師の研究授業の推進（外部講師の招聘、互見授業、若手教員研修会）					

２　その他、ご意見やお子様のことでお気付きの点などがありましたら、お書きください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。この用紙を封筒に入れ、１２月９日(金)までに、担任へ提出してください。

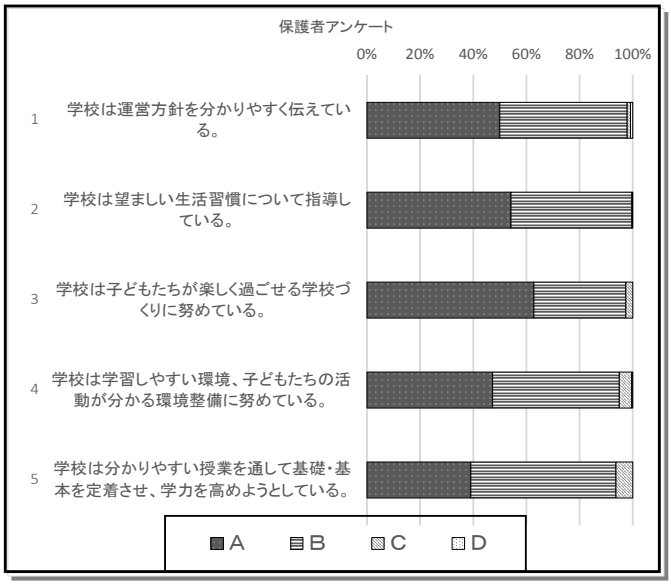
(2)保護者アンケート集計結果

Ｈ２９．１．１２（学校だより１１号）

12月に実施しました「学校経営についてのアンケート」へのご協力、ありがとうございました。おかげをもちまして、約95％の保護者の皆様よりご回答をいただきました。設問に対して、Ａ（よくあてはまる）及びＢ（ややあてはまる）と回答された割合の合計が、今回調査した５項目全てにおいて90％を上回る結果となり、教職員一同、これからも子供たちのために頑張りたいという意欲を高めているところです。以下、アンケート結果の詳細並びに考察をご報告いたします。

【集計結果】　【Ａ:よくあてはまる、 Ｂ:ややあてはまる、 Ｃ:あまりあてはまらない、 Ｄ:全くあてはまらない】

	内　　容	A	B	C	D	A+B
1	学校は運営方針を分かりやすく伝えている。 ・たかせ小ガイド2016・HPリニューアル・学校・学年だより・安全メール 等	50.0％	47.9％	1.3％	0.8％	97.9%
2	学校は望ましい生活習慣について指導している。 ・あいさつ運動週間・あったか言葉の推進・学習習慣チェックデー 等	54.2％	45.4％	0.4％	0.0％	99.6%
3	学校は子供たちが楽しく過ごせる学校づくりに努めている。 ・異学年交流縦割り活動・学校からっぽタイム・担任とのふれあい週間 等	62.8％	34.6％	2.6％	0.0％	97.4%
4	学校は学習しやすい環境、子供たちの活動が分かる環境整備に努めている。　・空調設備の整備・教室や廊下の掲示板の活用 等	47.3％	47.7％	4.6％	0.4％	95.0%
5	学校は分かりやすい授業を通して基礎･基本を定着させ、学力を高めようとしている。　・読書タイム・漢字計算大会・家庭学習の習慣化 等	39.1％	54.6％	6.3％	0.0％	93.7%



【考察１：５項目について】

◆５項目とも、肯定的（「Aよくあてはまる」「Bややあてはまる」）に回答された割合の合計が、目標に掲げていた90％を上回り、良好な結果となりました。

◆**「１　学校は運営方針を分かりやすく伝えている」**の項目に対して肯定的に回答された割合の合計は97.9％でした。今後も、運営方針を積極的に伝えていきたいと考えます。また、ホームページをさらに充実させるとともに、教育･安全情報メールの効果的な活用、運用に努めたいと考えます。

◆**「２　学校は望ましい生活習慣について指導している」**の項目に対して肯定的に回答された割合の合計は99.6％で、５項目の中で最も高い結果となりました。子供たちの生活習慣をよりよいものにするためには、学校と保護者の皆様との連携・協力が不可欠と考えます。これからも保護者の皆様と気持ちを一つにして、すてきな「たかせの子」の育成を目指して、教職員一同、頑張りたいと思います。

◆**「３　学校は子供たちが楽しく過ごせる学校づくりに努めている」**の項目に対して肯定的に回答された割合の合計は97.4％でした。今後も、「歌声が響き合い、楽しくて、夢が広がる学校」を目指し、異学年交流縦割り活動などを充実させたいと考えます。

◆**「４　学校は学習しやすい環境、子供たちの活動が分かる環境整備に努めている」**の項目に対して肯定的に回答された割合の合計は95.0％でした。今後も、限られたスペースや空間ではありますが、子供たちのためにできることを考えていきたいと思います。

◆**「５　学校は分かりやすい授業を通して基礎・基本を定着させ、学力を高めようとしている」**の項目に対して肯定的に回答された割合の合計は93.7％でした。目標としている90％は超えてはいますが、５項目の内では最も低い結果となりました。学力の向上につきましては、これまで

も様々な取り組みを進めてきてはいますが、まだまだ課題があると考えています。３学期は、各学年のまとめの学期です。学校では、これまで以上に結果にこだわり、子供たちが「分かった」「できた」というような手応えをもって学習できるように授業改善に努め、それぞれの学年で学ぶべきことをしっかり身に付けさせて進級させたいと考えています。また、家庭学習についても、パワーアップノート番付表の活用や強化月間の設定などを通して、充実させていきたいと考えています。

【考察２：自由記述について】

学校運営に関して、好意的なご意見をたくさんいただき、意を強くしているところです。また、健康・安全、学習、施設設備等に関して幾つかの要望もいただきました。ここでは、いただきました要望に対しまして、Ｑ＆Ａの形で回答させていただきます。

〈健康・安全〉

◆Ｑ１：感染症予防のため、インフルエンザや胃腸炎などが認められたら、ランチルームでの食事は速やかに避けるようにした方がいいと思います。

Ａ:ご心配、ありがとうございます。本校では、インフルエンザ等の集団感染の兆しが見られた学級は、速やかに学級での給食対応をとるようにしています。

◆Ｑ２：冬期間の教室の室温、湿度はどれくらいなのでしょうか。

Ａ:冬期間は、教室でストーブを使用しています。十分に暖かく、体操服の上に他の衣類を羽織る必要はあまり感じないようです。

◆Ｑ３：セブンイレブンの横断歩道（アピタ方面に向かう道）にも歩行者用の信号を取り付けて欲しい。学校からもお願いしていただきたい。

Ａ:ご心配をおかけしています。通学路でもありますので、取り付けることが可能かどうか検討したいと思います。

〈施設・設備〉

◆Ｑ４：２年１組の教室が狭い。学習参観などでは保護者が全員入れません。

Ａ:ご心配とご迷惑をおかけしています。現状では教室を別に設けることは難しいです。2年1組の教室は元々は会議室でしたが、児童数や学級数の増加に対応し、やむなく教室に改築して利用しています。狭くて子供たちに不便を感じさせることもありますが、教師と子供たちとの距離が近い、しっとりとして集中して学習できる等の良い点もあります。子供たちには良い点が多いということを伝え、楽しく学習して欲しいと思っています。

◆Ｑ５：トイレが暖房便座ではないので、腰を浮かして使用しているようです。

Ａ:ご心配をおかけしました。トイレは暖房便座対応です。12月上旬より暖房便座のスイッチを入れました。

〈学習〉

◆Ｑ６：校外学習など、授業外の勉強時間が多いように感じます。
校外学習や野外学習などをもう少し増やして欲しいと思います。

Ａ:校外学習や野外学習は、学習指導要領に示された各学年の内容を子供たちがしっかり学習し、身に付けることができるよう、計画的に実施しています。したがって、学年によって実施時間数は異なります。

◆Ｑ７：家庭での自主学習がなかなか身に付かず、パワーアップノートが進みません。
宿題の量が多いのか、なかなか終わりません。自主学習ができません。

Ａ:宿題の量については、「これが適量」という基準はありません。学校での学習の復習や予習という観点で出すことが多いと思いますが、家庭での学習習慣の定着を狙って出すこともあります。学校から宿題が出されても、出されなくても、自主学習をする子供たちを育てたいと思っています。宿題をするのは当たり前という発想です。ですから、「宿題は終わったの？」という問いかけは、好ましくありません。ぜひ、「自主学習は何をしたの？」という問いかけをするよう、心がけていただきますよう、お願いします。

◆Ｑ８：学期末や学年末までに単元を終わらせることに精一杯で、子供が楽しく学ぶということが後回しになっているように思います。

Ａ:ご心配をおかけしました。結果にこだわり、子供たちが「分かった」「できた」という手応えを感じながら学習できるよう、今後も、授業改善に努めていきたいと考えています。

〈その他〉

◆Ｑ９：お便りなどに掲載されているクラスの集合写真を購入できたらと思います。

Ａ:遠足や校外学習などのクラスの集合写真があると、親としてはうれしいものです。ただ、教師の仕事が煩雑になり、それによって教師と子供が向き合う時間が少なくなっては困ります。今年度は難しいと思いますが、市内の小学校の状況等を確認しながら、可能かどうか検討したいと思います。

６　教育活動の振り返り（内部評価）

（1）１学期の反省をふまえた２学期の重点事項

Ｈ２８．８．２４

【教務部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	○パワーアップノートの取り扱いについて共通理解を図る（教室で、テストや課題の後に読書代わりに行ってもよい・宿題をとしてもよいが、その際は、内容についても伝え、子供任せにはしないように工夫する）。 ○家庭学習への取組について学級の掲示や学年便りでの家庭への呼びかけを行う。 ○２学期に「たかせ小ガイド」を発行する。その際に、「家庭学習の手引き」を掲載し、家庭学習の充実を図るようにする。 ○１学期は、４項目すべてにおいて、８０％を達成していた。「できない」と答える児童がやや決まっている。個に応じた指導も考えていきたい。
教育課程	○クラブ活動については、来年度も今年度と同じようにする。 ○金曜日の６時間目は補充の時間として、一斉授業か自主学習（全員自習の中での個別指導）とする。 ○１学期の授業時数を点検整理し、マイナス時数にならないようにする。
学習指導計画	○スタディメイトについては、１，２年生を中心に割り当てる。 ○言葉の教室との連携を図る。火・木曜日は、学級担任と担当教諭で情報交換を行うようにする。
道徳教育	○「わたしたちの道徳」の活用を工夫する。 ○他教科との関わりについて計画的に実践するようにする（教育計画２１Ｐ～の全体計画参照）。 ○ロールプレイやソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に取り入れ、道徳的実践力を高めるようにする。年間指導計画に位置付ける。
キャリア教育	○キャリア教育の必要性について理解する（新しい時代の教育として）。 ○すべての教科をキャリア教育の視点から見直す工夫を行う（返事、あいさつ、持ち物をそろえる、友達との対話、グループで協力した活動など）。 ○日頃のあいさつや係活動など、普段の活動を大切にする（教育計画４３Ｐ）。
情報教育	○書画カメラを授業の中で積極的に活用していく。 ○ネチケット（情報モラル）についての指導を継続して行う。 ○デジタルカメラの使い方に慣れる。
図書館教育	○読み聞かせを継続して行って行く。 ○学級文庫を充実させる。毎月委員会による入れ替えだけではなく、担任が責任をもって入れ替えるようにする。
英会話科 国際理解教育	○英会話科公開授業に向けて、中村先生やヘンリー先生、杉原先生としっかり打合せを行っていく。
特別支援教育	○個別の指導計画を作成した。夏休み中に１学期の反省と２学期の目当てを決め、子供たちによりよい支援ができるようにする。
学習環境	○教室の掲示物の共通理解（市民憲章、たかせ小学校の目標、学習習慣チェック、時間割、校時運行表）を行う。 ○職員室前渡り廊下を「委員会コーナー」として充実させる。
研修	○校内研修や英会話科公開授業に向けて、部会や学年ごとに協力し、計画的に取り組んで行く。 ○３つの視点を基に事後研修を進めていく。

【生徒指導部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクション プラン	・「あったかアクション」の定着化を図る。　※「あったか言葉」の推進とともに ◎先生が子供たちのよさを見つけ広げる。 →学級内で子供たち同士伝え合う。（あったか言葉と平行して継続的に行う。） ※帰りの会、掲示物の工夫等 →各学年の「あったかアクション」の発表（人権集会で） ・人権集会の実施（１１月下旬～１２月上旬）
あいさつ	・あいさつがしっかり身についている子が少しずつ増えてきている。そのような子をどんどん紹介し、広げていく。 ※あいさつ月間ＭＶＰの発表（委員会）　※先生からの評価　※子供同士で ・友達同士のあいさつを増やす取り組み ※あいさつカードの活用（自己評価、他者評価）
生徒指導	・報、連、相、確の徹底（学年間→生徒指導主、教頭　小委員会（必要に応じて）） ※保護者からの子供の相談（悩み、心配事） ※保護者へ連絡する必要のある子供のトラブル、けが　等 ・いじめゼロにむけた校内研修会の実施（１０月～１１月） ※いじめの芽を見逃さない指導、学級運営（案）
交通安全	・全校一斉に下校する際の道路の歩き方指導 ※横に広がって歩かない等 ・スクールバスの下校指導　時間内に発車できるよう５分間乗車を心掛ける。 ・ろう下歩行指導の継続
児童活動	・フレンドリー集会は、２学期も計画的に実施する。 ・代表委員会の計画的な実施 ※代表委員会で決まったことの報告 ・放送指導の徹底 ※給食の際、放送中は、話さない。 ※放送する子の指導（マイクに近づき、大きな声で　ゆっくり）委員会担当者
人権教育	・アクションプランの内容参照
教育相談	・ふれあい週間（個人面談）の実施　（１０月） ・学校生活に関する保護者アンケートの実施（１１月） ※１２月の保護者との個別面談につながるようにする。 ・特別支援コーディネーターや養護教諭、生徒指導部が連携しながら、必要に応じて小委員会、懇談会を実施したり、外部の専門機関と連携したりして教育相談を進める。

【保健安全部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクション プラン 望ましい生活習 慣の育成	・「テレビ・ゲームわが家のルールチェック」は、親子で相談してルールを決め、それを意識して取り組む家庭が多く見られたのでよかった。ルールが甘い児童については、個別に指導する。 ・２学期は寒い時期に向かう。外で遊ぶ機会が減るためテレビ・ゲームの使用時間が増えてくる。その時期を見計らって実施する。（１１月中） ・チェックカードの感想などから、良い取組を保健便りなどで知らせ、親への啓発をしていく。 ・月曜日の健康チェック項目の中に定期的にゲーム、テレビの視聴についても入れ、「わが家のルール」を守って生活していくようにする。（継続化）
体力つくり チャレンジ ３０１５の活用 朝のランニング 業間のマラソン 等 体育科年間 指導計画	・朝マラソンには、自主的に取り組んでいる。業間のマラソンは、10時１５分にスタートできるように準備をする。 ・スポーツテストの結果を考慮し、弱い部分の力が高まるような運動を取り入れていく。 ・各学級で時間を確保して３０１５を記入している。児童の取組の様子や達成者を紹介する場を設定する。 ・グラウンドや体育館で遊んだあとの片付けを忘れやすい。使った用具を元の場所にしっかり片付けるよう、体育委員会やクラスで引き続き呼びかける。 ・器械運動のための運動器具を常設する期間を設けることで、計画された授業時数を確保できるようにする。
給食	・入室・歯磨き指導の担当者は、１、２年（１階）２名、３、４年（２階）１名、５、６年（３階）１名にする。 ・入室してから、盛られた給食の量の加減に時間を要し、着席までに時間がかかる。スムーズにできるように指導する。 ・配膳指導の担当者は、片付け時には、残って食べている子供の指導、食事テーブルの後始末の見届け、食器返却の見届けを行う。 〇牛乳を飲み干す 〇食器に残った汁やカレーの始末 〇テーブルの下拭き
清掃	・リーダーを中心に時間いっぱい（４７分まで）清掃活動、その後は後始末と反省会。黙働が定着するよう、今後も継続指導をしていく。 ・場所に合った清掃の仕方を工夫する。毎週金曜日は、水拭きをして、砂ぼこりを拭き取る。９月２８日清掃計画会実施。
保健	・運動会練習での暑さ対策が必要（安全帽をかぶる。日陰で休憩。水分・塩分の補給。タオルの持参） ・学校保健委員会は、学習公開デー（10/19）に実施。テーマは心の健康

(2) ２学期の反省をふまえた３学期の重点事項

Ｈ２９．１．６

【教務部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	○パワーアップノートの取り扱いについて、共通理解を図る。「たかせ小学校家庭学習パワーアップノート番付」を１階廊下に掲示し、子供たちの意欲を高めた。 ○2 月を家庭学習への取組を家庭に呼びかける強化月間とし、学年便りで子供の取組の参考となるノート写真を掲載する方法で呼びかけを行う。
教育課程	○金曜日の６時間目は補充の時間とする。但し、３学期は行事等の関係により日数が少ない。 ○1 月 23 日（月）から 27 日（金）までを「パワーアップ週間」とする。８：１５から８：４０を朝学習の時間とし、個別指導及びパワーアップノートを行う。１，２限を 40 分授業とし、大休憩から通常運行とする。特に、３学期チャレンジテストの学習を行う。 ○3 学期は調整学期である。これまでの授業時数を整理点検し、マイナス時数とならないようにする。
学習指導計画	○スタディメイトについては、１，２年生を中心に割り当てる。 ○言葉の教室との連携を図る。担当教諭からファイルを受け取る際に、情報交換を行うようにする。
道徳教育	○「わたしたちの道徳」の活用を工夫する。 ○ロールプレイやソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に取り入れ、道徳的実践力を高めるようにする。
キャリア教育	○実践的な返事やあいさつの力を付けていく。（名前を呼ばれたら「はいっ」と返事をする。朝出会ったら、お客さんへ、先生へ等、先に目を合わせてはつらつとした声であいさつする。）
情報教育	○ネチケットの指導を続けていく。 ○3 学期に 1 回は、パソコン室のＰＣを使って、文字打ち、資料づくりなどの授業を行う。（ジャストスマイルを活用）
図書館教育	○読み聞かせを継続して行う。 ○学級文庫を充実させる。担任による入れ替えの際は図書主任に申し出る。
英会話科 国際理解教育	○中村先生やヘンリー先生、杉原先生と継続して打合せを行いながら進める。 ○3 学期はエンジョイ・トーキングを行う。
特別支援教育	○校内委員会を開く。 ○個別の指導計画を元に、個に応じたよりよい支援ができるようにする。
学習環境	○教室廊下前の掲示板を充実させる。 ○職員室前渡り廊下の掲示板の一部を「委員会コーナー」として充実させる。
研修	○研究紀要の作成を行う。 ○2 月上旬に道徳研修会を行う。

【生徒指導部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクション プラン	・「あったか言葉」「あったかアクション」のさらなる推進（各学年、クラスの意識の向上を図る。） →プロジェクト委員会や先生、子供たち同士で見つけたよさを伝え合う。 （放送、「あったかポスト」等の活用） →掲示物の工夫（人権集会で発表した各クラスの取組の写真、コメント等） ・各クラスの定期的な取組の継続、工夫 ※４月か５月に「あったか言葉」や「あったかアクション」の意識付けをもっと行ってもよいのではないか。（来年度の課題）
挨拶	・挨拶パワーアップ週間（月１回）の継続 各クラスで目当てを決める。個々のがんばりを可視化した振り返り表の活用 クラスの達成率や全校の達成率を振り返る。 ↓ 自己評価で９０％以上達成したクラス　１１月　８１％　１２月　８６％ ※１学期は、上手な子と苦手な子の二極化が見られたが、苦手な子の意識の変容が見られた。 ・来校したお客さんへの挨拶指導
生徒指導	・報、連、相、確の徹底（学年間→生指主、教頭　校長　必要に応じて小委員会） ・生徒指導研修会の実施（金曜日の終礼後等、短時間で実施） ※２学期は、生徒指導の事例研修会、個別懇談会での保護者対応の研修会を実施
安全指導	・増築工事に伴う安全指導の継続 ・下校時刻の徹底（基本的には、放課後に児童を残さない。特別に必要な場合は、担任が付き添い、責任をもつ。※職員会議等がある場合は、残さない。） ・廊下歩行指導の継続 →走りやすい時間の重点指導（プロジェククト委員会、生徒指導等の見回り） ※給食後に教室に戻る時　※歯みがきタイムが終わって体育館に向かう時 ※休み時間が終わり、掃除に向かう時　等
児童活動	・卒業を祝う会に向けて計画的に取り組む。 →１月中旬には、内容に重なりがないよう、学年主任会等で相談する。 （出入りを含めて１０分程度にする。飾り等も卒業式に生かせるようにする。） →１月下旬には、代表委員会を実施する。 ・給食時の放送時間の見直し、精選 ・清掃中のＢＧＭについて →昼休み終了のチャイムがなったら、すぐ音楽をかける。 （移動のＢＧＭ４分程度→掃除のＢＧＭ１２、１３分程度）
人権教育	・アクションプランの内容参照
教育相談	・ふれ合い週間の実施（１月下旬から２月中旬） ・特別支援コーディネーターや、養護教諭、生徒指導部と連携を図りながら、必要に応じて小委員会や懇談会を実施したり、外部の専門機関と連携したして教育相談を進める。

【保健安全部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクション プラン 望ましい生活習 慣の育成	○２学期「テレビ・ゲームわが家のルールチェック」の結果は、７日間中５日以上守れた児童の割合は、８２、６％であった。１学期と比べると 4,5％ダウンしている。３学期はさらに低下することが予想される。 ・毎週月曜日の早寝生活チェックで月１回を２回に増やす。（継続化） ・チェックした日の達成度をクラスでグラフに表し、子供たちの取り組みへの意識を高める。 ・保健だよりを通して、各家庭への啓発を図る。 ・テレビ・ゲーム以外の楽しみを、子供たちで紹介し合う場を設ける。 ○就寝時間が遅い児童には、個別に本人や家庭への呼びかけを続けていく。
体力つくり チャレンジ ３０１５の活用 大縄跳び 短縄跳び等	○チャレンジ３０１５の中間報告は、各自の振り返りの機会となった。 ・達成者も用紙を渡して、引き続き運動に取り組めるようにする。 ・記録する時間を確保（担任指導のもと、１、２学期のつけわすれた分も） ・クラスや学年の達成率を子供に知らせ、達成への意識を高める。 ○３学期縦割りの短縄跳び ・縄跳び大会に向け、大縄跳びの代わりに２回短縄跳びの練習をする。 ・水曜日と木曜日の各学団でどのように取り組むか相談して実施する。 ・この期間は、大休憩の大縄跳びも短縄跳びの練習にする。 ・年度末に、リレーと大縄跳びの結果を合わせて優勝チームを表彰する。
給食	○給食週間 ・ゲームなどを取り入れ、食や栄養についての理解を深める。 ・給食への感謝の心がもてるよう、新保栄養教諭から話をしてもらう。（案） ○給食の量の調節 ・班リーダーが、班内の子供たちの量をうまく調節している。 ・少食、偏食の子供たちの量を、減らし過ぎないよう気を付ける。 （苦手なものでも半分程度食べる、配慮が必要な子供は食べられる量に） ・好きなおかずが残ったときに、一部の子供にたくさん入れ過ぎていることがあるので注意する。 ○座席の配慮 ・おしゃべりが多い子供、少食、大食の子供のグループへの配慮
清掃	○掃除の終わりの放送が入るまでは、終わらずに掃除を続ける。 ○掃除のグループも、落ち着いて作業ができるように配慮する。（２月） ・組み合わせが決まってから、もう一度回覧し確認してもらう。
保健	○インフルエンザ、ノロウィルス対策として、手洗い・うがい、大休憩・清掃時の換気、霧吹きでの加湿を行う。 ○雪遊び後、玄関の外でしっかり雪を落とす。（ジャンパー、長靴） ・下足箱に雑巾を敷き、長靴からしずくが落ちないようにする。 ・履き替え用の靴下とナイロン袋を、ランドセルに入れておくことを勧める。

(3) 3学期の反省をふまえた来年度の重点事項

H29．3．10

【教務部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	○パワーアップノートの参考となる取組について、各学年が２月号の学級便りで紹介した。次年度も、学期に１回、強化月間を決め、紹介したい。 ○家庭学習パワーアップノート番付を引き続き活用し、子供の家庭学習への意欲の持続を目指す。
教育課程	○朝学習として「パワーアップ週間」を設けた。チャレンジテストの結果を見ると効果があったと感じる。次年度は、２学期、３学期のチャレンジテストの直前に行いたい。 ○授業時数の確保、及び、30 年度の英会話２時間導入へ向けて、短縮運行も視野に入れて教育課程を編成ていく必要がある。（小教研の日等） ○朝活動として、週１回、学習タイムを設ける。
学習指導計画	○スタディメイトについては、１，２年生及び支援級の子供が交流級で行う授業の際に配置するようにする。 ○ことばの教室との連携を図る。担任教諭からファイルを受け取る際に、簡単に情報交換を行うようにする。
道徳教育	○年間指導計画を見直し、教科との関連を図る。 ○学校の重点項目については、指導する月をそろえて行う。 ○適宜「書く活動」を取り入れる。道徳カルテ（仮称）を工夫し、年間を通して書き込めるような物を準備する。
キャリア教育	○実践的な挨拶の力を付けていく。 ○校外学習へ行く際は、そこで出会う職について事前調査し、視野を広げてから参加するようにしていく。 ○子供が発達段階に応じた将来の夢がもてるように指導していくと共に、それを明示できるような作文活動などを工夫していきたい。
情報教育	○パソコンの利用の仕方として、インターネットを利用した調べ学習だけでなく、学期に１回は、パソコン室のＰＣを使い、文字打ち、資料作り等の授業を行うなど、多面的に慣れさせていく指導の工夫を行う。
図書館教育	○読み聞かせを行う。 ○読んだ本を記録する「読書大好きカード」の記入の累積を図る。 ○学級文庫を充実させる。担任による入れ替えの際は図書主任に申し出る。
英会話科 国際理解教育	○ＡＬＴ，ＪＡＴとの打合せを継続して行っていく。 ○ＥＴ（エンジョイトーキング）については、早い段階で打合せを行い、その意義や進め方について共通理解を図る。
特別支援教育	○個別の指導計画を基に、個に応じたよりよい支援ができるようにする。 ○校内委員会を計画的に開き、職員全体で共通理解できる場をもつ。
学習環境	○学校全体で取り組みたい最低限の学習規律や話型については、掲示物を利用し、教室に位置付ける。
研修	○学力向上拠点校としての新たな研修計画を立案する。

【生徒指導部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクションプラン	・「あったか言葉ポスト」を設置し、「あったかカード」を通した心の交流を図ることで、学級の友達だけでなく、他学年の子にも感謝の気持ちを伝え合う温かい雰囲気が生まれた。 ・２学期の人権集会で発表した各クラスの取組の写真、コメント等を廊下に掲示することで、「あったか言葉」や「あったかアクション」の意識付けを図ることができた。 ・来年度は、年度当初に「あったか言葉」や「あったかアクション」への取組を強調したい。
挨拶	・インフルエンザの流行のため、３学期は、挨拶パワーアップ週間を設けることができなかった。しかし、１、２年生を中心に挨拶が２学期に比べてよくなった子が増えている。学級や学年指導、プロジェクト委員会を中心とした挨拶運動等により、挨拶のよさを感じている子が増えてきたと考える。来年度も挨拶のよさを感じる活動を工夫していきたい。
生徒指導	・３学期は、若手の先生からの生徒指導上の相談が多かったが、学年主任とも連携しながら組織的に取り組むことができた。どの学年も情報交換を密にし、生徒指導主事や管理職等と相談しながら、対応を検討する意識が高まっている。また、相談後や指導後の「確認」も大切にすることができた。 ・本校の「いじめ防止基本方針」の振り返りをした。来年度は、いのちを大切にした自分の生き方を考える機会の充実や、教師自身の人権意識の向上に努めたい。 ・保護者と信頼関係を育むために、電話対応等、具体的な研修が今後必要である。
安全指導	・増築工事に伴う安全指導を継続的に行うことで、工事中も子供たちは安全に過ごすことができた。 ・廊下を走りやすい時間の見守りをプロジェクト委員会が中心になって行った。特に給食後、教室に戻る時間帯に重点を置いた。その時間帯に走る子は減ったが、来年度も引き続き廊下歩行の指導を工夫していきたい。 ・今年度から、田家地区の１年生だけでなく、２年生も雨天の場合はカッパを着用することにした。低学年の傘のトラブルもなくなり、安全上よかったと思われる。
児童活動	・卒業を祝う会に向け、学年主任会等で出し物や飾り付け等を検討しながら、５年生が中心になり、計画的に取り組むことができた。 ・清掃中のＢＧＭを見直すことで（１曲目は掃除場所への移動。２曲目は掃除の前半。３曲目は掃除の中盤。４曲目は掃除の後半）メリハリが生まれ、掃除に集中しやすい雰囲気をつくることができた。 ・給食時の放送時間が長く、放送中の私語もやや目立つ。来年度は、放送内容や放送時間等を精選する必要がある。
人権教育	※アクションプランとの関連
教育相談	・年間３回のふれあい週間を設けることで、子供一人一人のがんばりや悩み等に寄り添う機会となった。一方で、普段から子供の様子を見守り、心の交流を図ることを大切にしていきたい。 ・特別支援コーディネーターや副コーディネーターが中心となり、特別支援学級や通常級の特別な支援が必要な子への対応を組織的に取り組むことができた。

【保健安全部会】

重点課題	重点的な取り組み
★アクション プラン 望ましい生活習 慣の育成	○３学期「テレビ・ゲームわが家のルール」チェックの結果は、７ 日間中５日以上守れた児童の割合は、８０％であった。目標の８５％には届かなかったが、２学期の割合を維持できた。 ・健康生活チェックで月２回「わが家のルール」についてチェックを行うことが、子供たちへの意識付けに役立った。達成率をグラフ化してクラスに掲示し、子供たちの意識を高める取組は続けていく。 ・目当ての決め方は、個人差が大きい点が気になる。目当てをいくつかの段階に分けて提示し、そこから自分に合うものを選んで取り組む方法も考えられる。 ・自分の目当てをよく分かっていない子供たちも見られるので、しっかりと意識できるような工夫が必要である。
体力つくり チャレンジ ３０１５の活用 大縄跳び 短縄跳び等	○チャレンジ３０１５の達成率を高めるために、記入の時間を確保する工夫をしていくことが大切である。 ○体育の時間の準備運動を工夫し、いろいろな動きに親しめるようにする。 ○悪天候で全校リレーが中止になった場合、体育館での活動を実施していろいろな運動に楽しく取り組めるようにしたい。（学年を分けて） ○大休憩に大縄跳びを練習する時間を設けたので、低学年が上達することができてよかった。
給食	○配膳担当の先生を増やした（歯磨き担当は減）ので、どのグループも配膳がスムーズに行えるよう指導が行き届いた。準備も早くなって、食事の時間が確保できた。 ・盛り付けも上手になってきたが、４月に学年が進むと慣れるまで根気よく指導が必要である。
清掃	○掃除の音楽に合わせて、作業が時間内できるように取り組んでいるのがよかった。（上学年） ・掃除に取り組むのが早すぎる子供への指導をする。時間を守ってみんなと一緒に始める。 ・早く終わっても挨拶をせず、音楽が終わるまでは、きれいに掃除をすることを徹底する。
保健	○インフルエンザや胃腸炎などが流行したが、手洗い・うがい、マスクの着用、校内での過ごし方、教室給食、教室掃除などの対応で、急激な拡大を防ぐことができた。 ・ストーブによる空気の乾燥を防ぐための、霧吹きや換気を定期的に実施する。 ○大きなけががなくてよかった。危険を予測し、早めの指導を続ける。

（４）今年度の成果と来年度に向けた課題　　H.２９/３/２１

○成果　△課題

◆学校経営について

①教職員の協働体制づくり（内に開かれた学校づくり）

○日頃から様々な取組の成果を認め合ったり、課題を共有して共に取り組んだりするなど、校務の充実を通して協働関係を強めた。

○校務や研修のスリム化を図り、会議・行事なども見直し、学校パワーアップを推進した。

△学校が組織として動くために、さらに確実な「報告・連絡・相談・確認」を大事にしていく必要がある。また、教職員の学校経営への参画意識をさらに高めることで、活力ある学校づくりにつながると考える。

△教育活動の重点化をさらに図り、年間を通したＰＤＣＡの評価活動を工夫する。

②家庭・地域との信頼関係づくり（外に開かれた学校づくり）

○学校経営方針をはじめ、アクションプラン、年間行事予定、家庭学習についての留意事項等を記載した「たかせ小ガイド 2016」を新しく作成し、保護者に配布して家庭との連携に努めた。

○各種たよりによる積極的な情報発信並びにホームページの充実は、学校の教育活動に対する理解につながり、家庭との連携の大きな柱の一つとなっている。

○学校だよりを通して「学校経営に関するアンケート結果」を家庭に公表し、学校経営についての共通理解を図ることができた。

△今後も、家庭との「ちょっとした連絡・相談」を大事にして信頼関係づくりを進めたい。

③教師の資質向上（人づくり）

○教師の仕事や授業づくり、子供や保護者との対応などについて、日頃の会話や雑談を大事にして、互いに学び合う職員室となっている。

○中央教育審議会芸術ワーキング委員として取り組んできた学習指導要領の改訂に向けた新しい情報を出来るだけタイムリーに伝え、教職員の意識改革に努めた。

④特別支援に関する校内支援体制の整備

○正副特支コーディネーターを軸に、支援を要する児童へのサポート体制を強化した。

△来年度は、特別な支援を必要とする児童が増えることが見込まれることから、正副特支コーディネーターを軸に、学級担任、通級担当者、スタディ・メイトとの連携を十分に図るようにする。

◆学習指導について

①わかる・できる授業の取り組み

○研修では授業の導入･展開･終末での視点を基に、before/afterの発想を大切にし、学団での互見授業や事前・事後研を通して指導の工夫に努めた。

○現職研修の充実を目指してコーチングに関する研修を行ったり、若手教員の資質向上を目指して若手教員研修会を行ったりし、教職員の意識改革に努めた。

②学ぶ意欲の向上と授業規律の確立

○「学習習慣チェックカード」から、各学級で重点項目を決めて取り組んで成果があった。

○「聞き合う力を育てる」ための３つの約束事や「話す・聞く・作業する」の区別等、全校で共通した学習規律の確立に努めることができた。

△授業での生徒指導の機能（自己肯定感を高める～「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定の場」など）を生かす研修を、さらに進める必要がある。

③家庭学習の習慣化（アクションプラン２）

○各学級で家庭学習の方法を具体的に指導し、自主学習ノートの活用をよさを掲示したり、家庭学習番付表を作成したりして意識を高めたことで、家庭学習のめやす時間（10分間×学年＋10分）を達成した子供が増えた。

△今後、家庭学習を充実させていくには、授業の学習内容と家庭学習を効果的につなげたり、家庭学習の取組のよさを発信したりして望ましい学習習慣の定着を図りたい。

◆生徒指導について

①積極的な生徒指導の推進

○子供の不安や悩みを見逃さない観察と共感的な声かけや相談活動に努めた。
（日頃のふれあい、「ふれあい週間」、「生活アンケート」他）

○生徒指導の力量を高める校内研修会を行い、互いの考えのよさや違いを学んだ。また、日々の出来事を事例に、ミニ研修会を行った。

○ネットに関するアンケートを実施するとともに、ネットトラブル防止教室を開催して、自分の身を守ることへの意識を高めた。

○「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、些細な情報も共有して、問題が起きた場合は組織で対応する支援体制（生徒指導小委員会他）を今後も強化していく。

○清掃中のBGMを見直すことでメリハリが生まれ、清掃に集中しやすい雰囲気をつくることが出来た。様々な活動場面を振り返り、子供たちのよりよい活動環境をつくるように務めたい。

△「いじめ防止基本方針」の振り返りを基に、来年度は、いのちを大切にした自分の生き方を考える機会の充実や、教師自身の人権意識のさらなる向上に努めたいと考える。

②児童の温かい人間関係づくり（アクションプラン２）

○年間を通して、児童会のプロジェクト委員会を中心に進めた「あったか言葉」の広がりで、子供たちの温かい関係づくりに成果が見られた。
（「あったか言葉」の発表・掲示、「あったかエピソード」「あったかポスト」他）

○学級においても、「きらきらを見つけて伝えよう」「なかよしメッセージ」など、帰りの会などで互いを認め合う温かい取り組みを進めた。

△インフルエンザの流行もあり、３学期は挨拶パワーアップ週間を設けることが出来なかったが、学期が進むにつれて挨拶のよさを感じている児童が増えている。来年度も、挨拶のよさを感じる活動を工夫していきたい。

◆健康安全について

①健康指導（アクションプラン３）

○「早寝・清潔検査」や「とやまゲンキッズ作戦」の結果を保健だよりなどを通して知らせることで、家庭と状況を共有し、連携しながら健康な生活習慣づくりを推進することができた。

○望ましい生活習慣の育成を目指して取り組んだ「テレビ・ゲームわが家のルール」チェックの結果は80％となり、目標の85％には届かなかったが、各家庭で子供の生活リズムやゲームのルールを見直す機会となった。

○「薬物乱用防止教室」や「いのちの授業」などに取り組み、子供たちは心とからだの健康づくりについて考えることができた。

②体力つくりの日常化

○「みんなでチャレンジ３０１５」等を活用して、始業前の自主マラソン、週一回の全校リレー（冬期は大縄跳び）、大休憩時のマラソン（毎週水曜日）など、子供たちは目当てをもって取り組むことができた。

△体力テストの結果を生かし、各学年や全学年共通の課題などを確認して、日頃の体育の授業等を通した活動の工夫が必要である。

③安全指導

○防犯パトロール隊や学童保育指導員（たかせキッズ）など、地域の方との連携を図り、児童の安全確保に努めた。

△事故やケガの未然防止、発生したときの対処など、学校の危機管理体制を整備するとともに、児童及び教職員の危機管理意識を高める必要がある。